資料５

第１２回日米台水道地震対策ワークショップの開催決定について

「第 12 回日米台水道地震対策ワークショップ」については、当初令和３年度(令和４年１月)に開催する予定だったが、新型コロナウィルス感染症の影響で、令和４年度（令和５年１月末）に延期されていた。

令和４年 10 月 27 日に開催された日本水道協会の開催準備委員会にて、予定どおり令和５年１月 30 日(月)～2 月１日(水)の日程で本市において開催することが最終承認された。

【開催概要】

1　目　的：日本、米国、台湾の水道事業関係者による地震対策に関する調査研究、情報交換

2　主　催：日本水道協会、米国水研究財団、台湾水道協会、熊本市上下水道局(地元事務局)

3　参加者数：約８０人（内、米国１５人、台湾１５人）

4　日　程：令和５年１月 30 日(月)～2 月１日(水)

期日	プログラム
１/３０（月）	◇各国代表市長表敬 ◇ワークショップ１日目 開会式(市長 開催地代表挨拶) 基調報告、論文発表　本市から各１編　熊本地震時の対応状況や現在の復旧状況 企業展示　㈱クボタ、日鉄パイプライン＆エンジニアリング㈱等、計１０社 パネル展示　熊本の水のPR、アジア太平洋水サミットの成果報告 ◇歓迎レセプション<於：ラソール・ガーデン熊本>　※おもてなし武将隊による歓迎演舞など
１/３１（火）	◇ワークショップ２日目 論文発表、熊本城復旧状況視察、企業展示、パネル展示 ◇会議ディナー　<於：熊本ホテルキャッスル>　※花童(はなわらべ）による舞踊披露など
２/１（水）	◇視察 健軍水源地、大観峰、熊本地震震災ミュージアム（旧東海大学阿蘇キャンパス）

※本市関係個所は青書き

5　開催にあたって

新型コロナ禍での開催ということで、参加者を絞る他、会議スペースを広くする、食事会の際に飛沫防止パネルを設けるなど感染対策を十分行い実施する。

【参考】

１．水道地震対策ワークショップとは

水道地震対策ワークショップは、1995 年の阪神・淡路大震災後に、国際水道協会から要請を受け日本水道協会が開催した水道事業の地震対策に特化したワークショップである。

その後、日本水道協会と米国水研究財団、台湾水道協会が中心となり、２年毎に順番に開催している。これまでの日本での開催都市は、地震の被害を受けた神戸市、新潟市、仙台市の３市。また、米国からは、サンアンドレアス断層が走っているカリフォルニア州からサンフランシスコ市やロサンゼルス市等が参加している。

～直近の開催状況～

第11回	米国カリフォルニア州ロサンゼルス市(2019 年)
第10回	台湾・台南市（2017 年）
第 9回	仙台市(2015 年)

２．本市開催となった経緯

・H30.11 月　日本水道協会から熊本市での開催について打診あり
・H31. 2 月　日本水道協会から正式依頼
・H31. 2 月　市長まで説明のうえ、本市開催の承諾を正式に回答 ⇒ 決定
・R1.10 月　次期開催市として、第 11 回ワークショップ（2019 米国ロサンゼルス市）に職員を派遣
・R3.2 月　日程を令和４年１月に決定　※新型コロナの状況注視
・R3.8 月　令和４年度(令和５年１月末)に日程延期を決定　※新型コロナの状況注視、最終判断は令和４年 10 月頃

３．主な参加団体（直近の第 11 回参加者より）

日本：札幌市、仙台市、東京都、横浜市、名古屋市、新潟市、大阪市、神戸市、熊本市の水道局、等
米国：南カリフォルニア都市水道企業団、サンフランシスコ湾東岸地域水道企業団、
　　ロサンゼルス電気水道局、シアトル公営企業、米国環境保護庁、等
台湾：台湾水道公社、台北水道局、国立地震工学研究センター、国立防災科学技術センター、等





ロサンゼルス市で開催された直近（第 11 回）のワークショップの様子